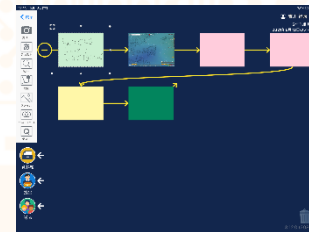


小豆島町学校ICTレポート

授業支援クラウド「ロイロノート・スクール」

○ロイロノート・スクールとは

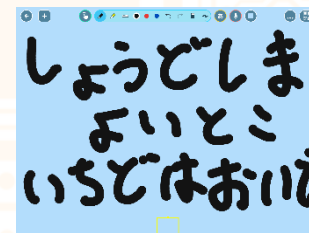
ロイロノート・スクールは、ロイロ社が提供する授業支援クラウドで、小学校から大学まで広く使われているサービスです。全国で5000校以上、1日30万人が利用しています。香川県下では、小豆島町の他に坂出市、さぬき市、善通寺市、土庄町の教育委員会で導入されています(2021年5月現在)。小豆島中央高校でも使われています。



1. ノート画面

○ロイロノート・スクールの機能

授業を受けるには、受ける授業名を選んで、ノートを作ります。ノートにはいろいろなカードをいれることができます(右図1.)。カードにはさまざまな種類があり、文字入力も手書きイラストも作ることができます(右図2.)。iPadで撮影する写真カードもあります。植物の観察日記の作成に使っています。インターネットで検索した情報をカードにすることもできます。カードを連結すると、そのままブレゼン資料になります。



2. 文字カード

○ロイロノート・スクールを使った双方向授業

先生と児童生徒は、相互にカードのやりとりができます。例えば先生が作った問題カードをクラス全員に配布し、問題を解いた児童生徒は提出箱に提出します。提出箱に入ったカードは一覧表示できます(右図3.)。先生は、提出箱のカードを選んでクラス全員に見せることもできますし、採点して個別に返却することもできます。これ以外にも様々な機能が提供されています。



3. 提出箱

○クラウドとは？

クラウドとはコンピュータで行うほとんどのデータの蓄積や処理をインターネットの向こう側で行ってしまうサービスの総称です。意識する・しないに関わらず普段スマホを使っている私たちのインフラなのです。電気や水道やガスと同じインフラです。水道の蛇口をひねるとき、水がどこからやってくるのか気にする必要はありません。クラウドではスマホからクリック一つでコンピュータの計算結果(動画や音声、メール・SNSメッセージという形で)を引き出すことができます。すでに私たちの社会で広く使われていますし、さらに深く浸透していくと予測されています。

では、学校教育でクラウドを活用する利点はなんでしょうか。1つ目は、サーバなどを校内に置く必要がないため、維持や運用のため費やしていた先生の仕事を減らすことができます。2つ目は、インターネット接続ができればいつでもどこでも学習ができることです。3つ目は、データ容量の制限がほぼないため過去の学習を消す必要がなく、いつでも振り返り学習をすることができます。

小豆島町でも1人1台学習者端末の整備を機に、ロイロノート・スクールなどクラウドを活用した個別学習を進めていく予定です。

小豆島町の目標

全児童生徒が1日1時間はiPadを使った授業を受ける